

A conceptual image showing two hands, one above the other, holding several thin, light blue strings that crisscross between the fingers, symbolizing connection or technology.

株式会社Photosynth  
2024年12月期 第1四半期  
決算説明資料



2024年5月15日

## Financials

ARR <sup>*1</sup> <b>24.3</b> 億円+ ARR 成長率 <sup>*3</sup> : 15.1%	サブスクリプション売上比率 <sup>*2</sup> <b>85.7%</b>	四半期粗利率 <sup>*2</sup> <b>77.5%</b>
売上高成長率 <sup>*3</sup> <b>23.3%</b>	Churn Rate <sup>*4</sup> <b>1.12%</b>	現契約社数 <sup>*2</sup> <b>5,465</b> 社

(\*1) Annual Recurring Revenueの略語。2024年3月のサブスクリプション売上を12倍することにより算出。

(\*2) 2024年12月期第1四半期実績。当社は12月期決算。

(\*3) 2024年12月期第1四半期実績。対前年同期比。

(\*4) 解約したMRRを解約前のMRRで除した割合の直近12か月移動平均。

## ハイライト



連結グループでの

初の四半期黒字化を達成



Akerun導入台数が順調に増加したことに伴い

売上高が通期計画比で

堅調に推移 (1Q進捗率：24.3%)

## ローライト



サブスクリプション売上は継続的に増加も、  
非サブスクリプション売上も引き続き上振れし、

粗利率が直前四半期比で横ばい



売上高成長率は堅調に進捗するも、  
昨年からの黒字化達成を最優先としているため、

ARR成長率が逡減

# アジェンダ

① 2024年12月期 第1四半期 決算説明

② KPIアップデート

③ その他



## ■ 売上高

期初計画に対し、当第1四半期の進捗率は24.3%と堅調に進捗しています。

年度後半にかけて売上が徐々に積み上がる下期偏重のストックビジネスのため、第1四半期での対通期進捗率24.3%という結果は、対計画比で若干の上振れと判断しています。

## ■ 営業利益

主に、売上拡大や収益性の強化により、当社連結グループとして初の四半期累計期間の連結営業利益の黒字化を達成しました。

	2024年12月期 第1四半期実績	2024年12月期 通期計画	達成率(%)
売上高	704百万円	2,900百万円	24.3%
売上原価	158百万円	—	—
粗利	546百万円	—	—
粗利率	77.5%	—	—
営業利益	59百万円	10百万円	595.7%
経常利益	61百万円	10百万円	615.7%
親会社株主に 帰属する 当期純利益	75百万円	25百万円	303.5%

# 2024年12月期 第1四半期 対前年比

## ■ 売上高・総粗利

売上高および粗利は、Akerunの導入台数の増加に伴い、堅調に増加しました。

粗利率は、相対的に粗利率の低い工事費やオプション品販売等の非サブスクリプション売上が増加したことや、賃貸用資産の償却費が増加したことにより低下していますが、引き続き70%台後半の高水準を維持しています。

## ■ 営業利益

効率的な成長投資に切り替えたことに伴い、売上高の成長を達成しながら、販管費を抑えることができた結果、当社連結グループとして初の四半期累計期間の連結営業利益の黒字化を達成しました。

	2023年12月期 第1四半期実績	2024年12月期 第1四半期実績	増減額	増減率
売上高	571百万円	704百万円	+133百万円	+23.3%
売上原価	86百万円	158百万円	+71百万円	+82.7%
粗利	484百万円	546百万円	+61百万円	+12.7%
粗利率	84.9%	77.5%	—	▲7.3ppt
販売管理費	540百万円	486百万円	53百万円減少	9.9%減少
営業利益	▲55百万円	59百万円	+114百万円	—
経常利益	▲53百万円	61百万円	+115百万円	—
親会社株主に 帰属する 当期純利益	▲49百万円	75百万円	+125百万円	—

# 2024年12月期 第1四半期 売上高と粗利率の推移

## ■ 売上高と粗利率

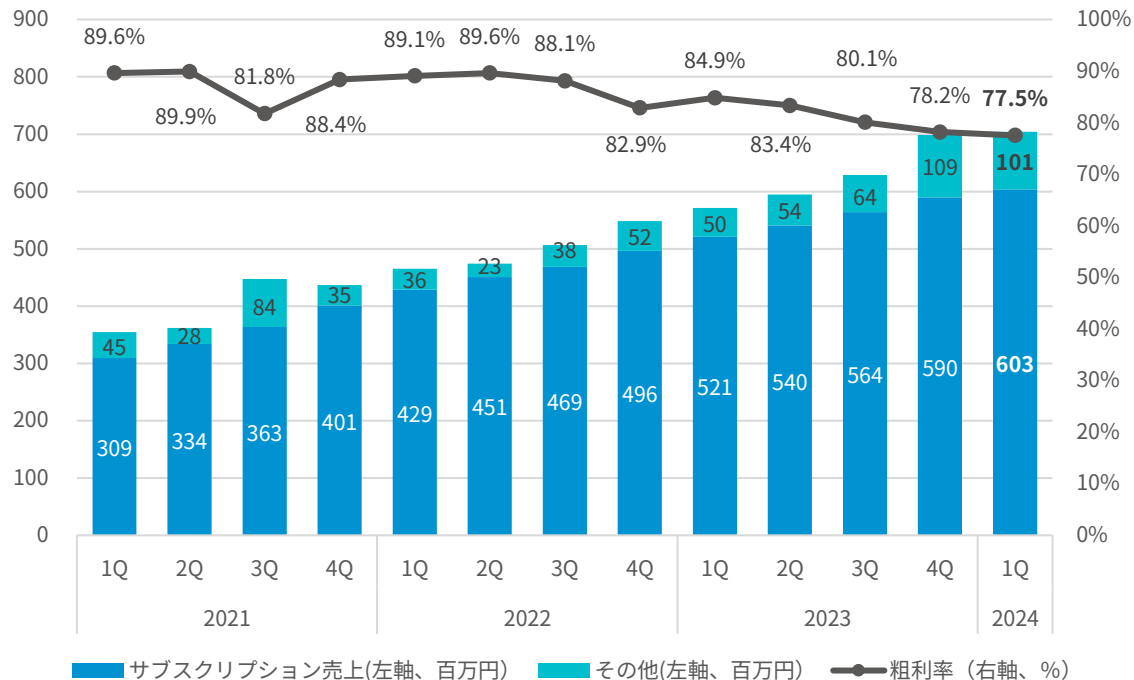
売上高はサブスクリプション売上、および非サブスクリプション売上が堅調に増加したことで、前年同四半期比で23.3%増加しました。

また、当第1四半期の粗利率は77.5%となり、引き続き高水準を維持していますが、償却費の増加に加え、直前四半期から引き続き非サブスクリプション売上が約1億円と他の四半期より上振れたため、若干低下しています。

## ■ 今後の粗利率の見通し

中期的には、賃貸用資産およびソフトウェアが事業拡大に伴い積み上がることによる償却費の増加を見込んでおり、サブスクリプション売上の粗利率は、数年をかけて徐々に低下する一方で、今後も高い水準を維持できるものと考えています。また、粗利率の水準は、サブスクリプション売上と非サブスクリプション売上の構成比次第で変動する可能性があります。

売上高（百万円）と粗利率



(注) 2021年12月期第2四半期以前の数値は、監査及びレビューを受けていない。

(注) 2023年12月期第1四半期から、管理会計の集計方法を若干修正したため、過去数字に関するも適及して組替表記している。

# 2024年12月期 第1四半期 売上高と営業費用の推移

## ■ 売上原価

サブスクリプションサービスの上振れに加え、その他（工事・オプション品販売等）の非サブスクリプション売上の増加により、売上原価は増加しました。

## ■ セールス&マーケティングコスト

リード獲得における効率性を重視しており、前年同四半期比および直前四半期比ともに減少しました。

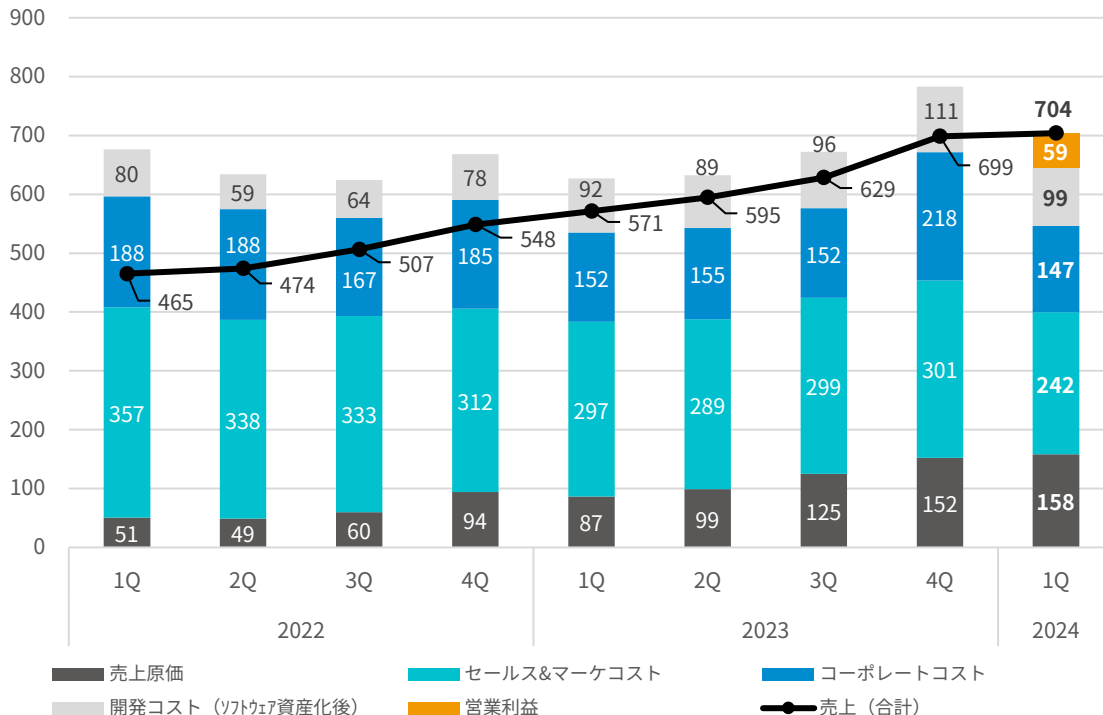
## ■ コーポレートコスト

前年同四半期比および一時的な決算賞与を除いた直前四半期比では、主に採用費の発生タイミングの影響により、それぞれ若干増減しています。

## ■ 開発コスト（ソフトウェア資産化後）

ソフトウェア資産化が減少したことに伴い前年同四半期比で増加した一方で、開発工数削減により直前四半期比では減少しています。

売上高と営業費用の推移（百万円）



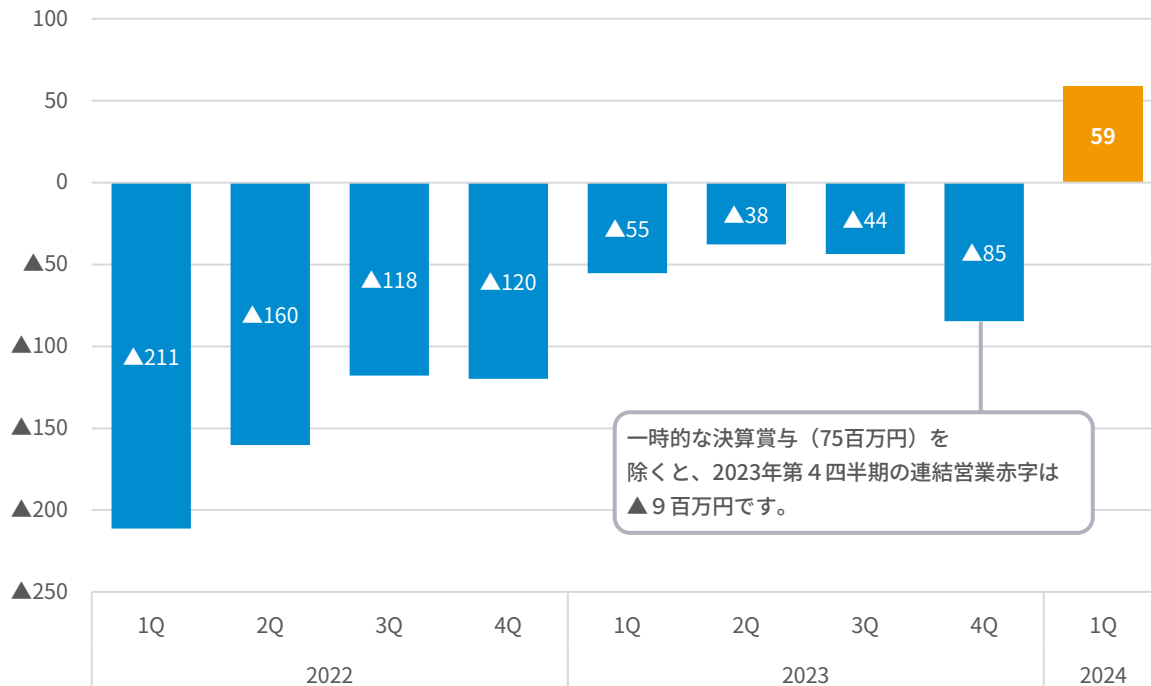
(注) 2021年12月期第2四半期以前の数値は、監査及びレビューを受けていない。  
(注) 2023年12月期第1四半期から、管理会計の集計方法を若干修正したため、過去数字についても適及して組替表記している。



## ■ 営業利益／損失の推移

効率的な成長投資に切り替えたことに伴い、  
 売上高の成長を達成しながら  
 販管費を抑えることができた結果、  
 当社連結グループとして  
 初の四半期累計期間の連結営業利益の  
 黒字化を達成しました。

営業利益／損失の推移（百万円）



(注) 2021年12月期第2四半期以前の数値は、監査及びレビューを受けていない。

## ■ 粗利

サブスクリプションサービスの上振れに加え、  
 その他（工事・オプション品販売等）の  
 非サブスクリプション売上の増加により、  
 粗利は増加しました。

## ■ セールス&マーケティングコスト

リード獲得における効率性を重視しており、  
 主にマーケティングコストを中心に減少しました。

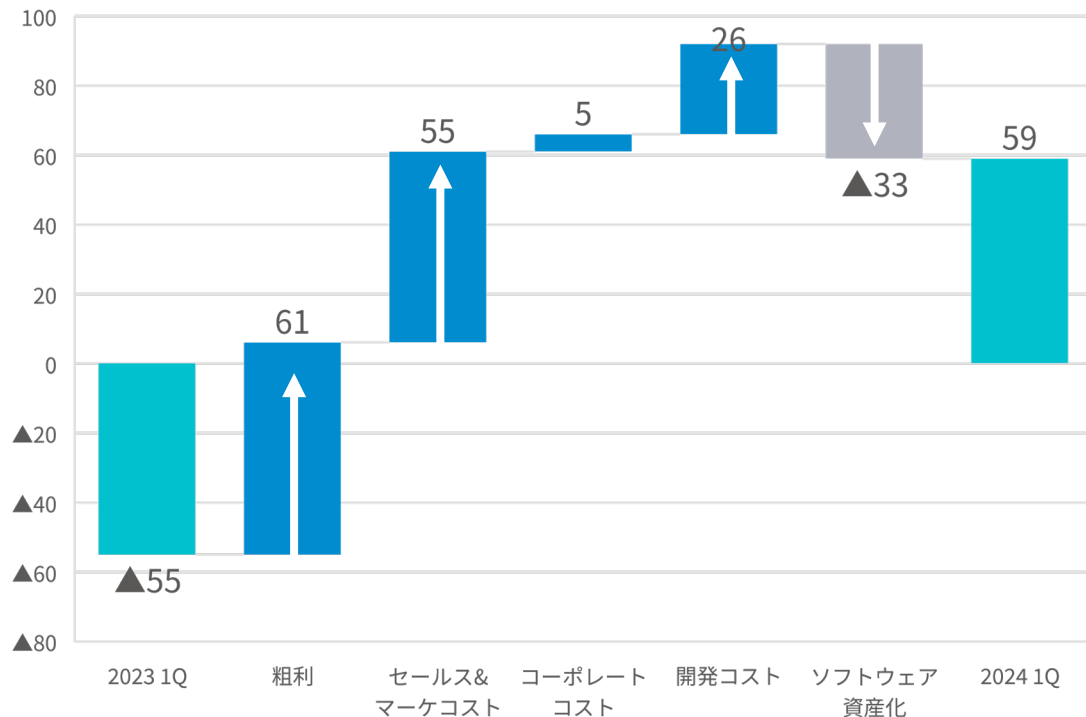
## ■ コーポレートコスト

特段、大きな変動はありません。

## ■ 開発コスト及びソフトウェア資産化

キャッシュベースの開発コストは減少した一方で、  
 ソフトウェアの資産化は減少しています。

損益変動要因（2023年度第1四半期 対 2024年度第1四半期、百万円）



## ■ 粗利

直前四半期にその他（工事・オプション品販売等）の非サブスクリプション売上の大幅な増加があった影響による粗利の減少を、サブスクリプション粗利の堅調な増加でカバーできたことで、直前四半期比ではほぼ横ばいでした。

## ■ セールス&マーケティングコスト

リード獲得における効率性を重視しており、主にマーケティングコストが減少しました。

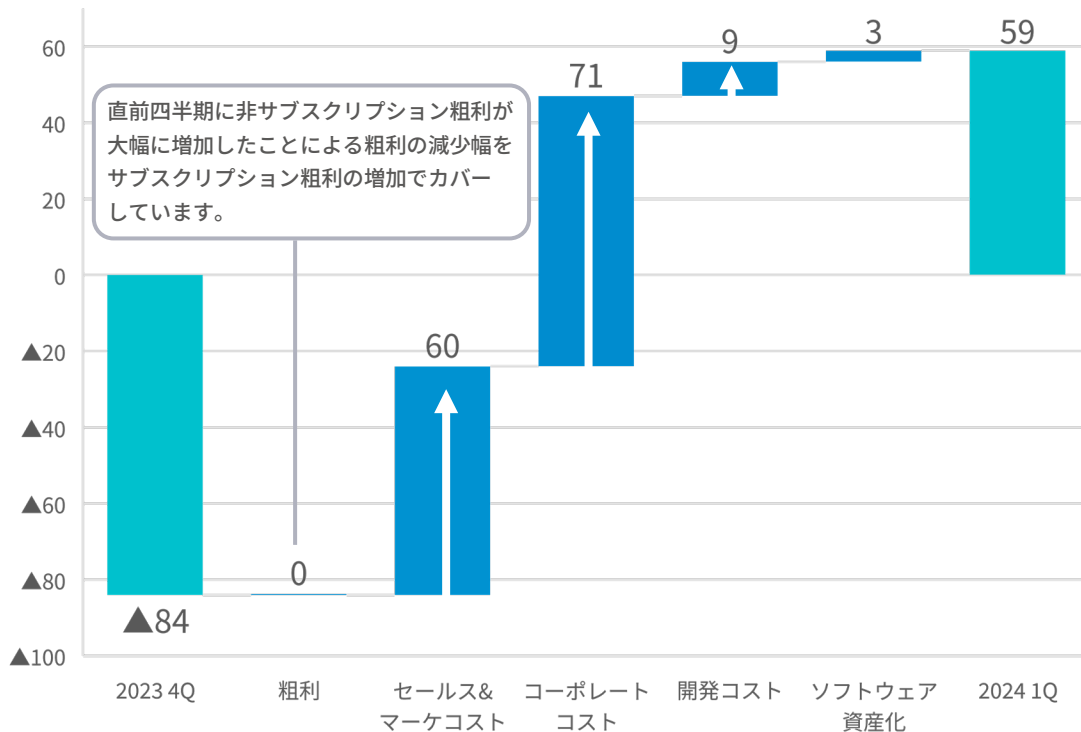
## ■ コーポレートコスト

一時的な決算賞与（75百万円）を除いた直前四半期比では、特段、大きな変動はありません。

## ■ 開発コスト及びソフトウェア資産化

キャッシュベースの開発コストは減少した一方で、ソフトウェアの資産化は若干増加しています。

損益変動要因（2023年度第4四半期対2024年度第1四半期、百万円）



# アジェンダ

① 2024年12月期 第1四半期 決算説明

② KPIアップデート

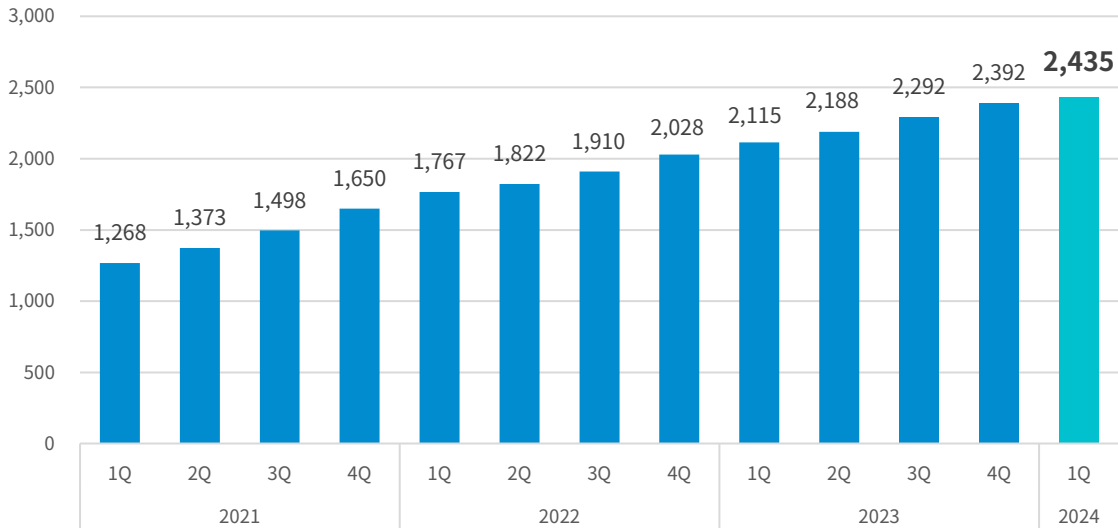
③ その他



## ARR成長率は15%

ARR成長率は、通期黒字化を目標にコスト圧縮などを通じた効率的な営業活動を重視したことから、生産性の向上は順調に進捗している一方で、黒字化を優先しているため、ARR成長率としては若干逡減しています。

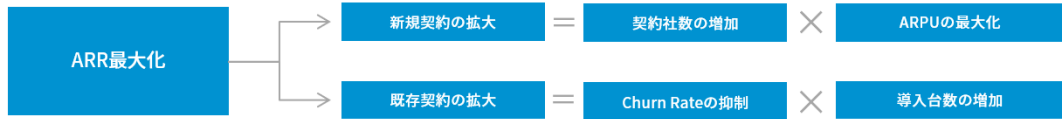
ARR（百万円）



(\*1) Annual Recurring Revenueの略語。各期末サブスクリプション売上を12倍することにより算出。

### KPI

主力事業のAkerun入退室管理システムは、ハードウェアとソフトウェアを組み合わせたHESaaSとしてサービス提供し、事業の成長性を表すARRを重要経営指標としています。

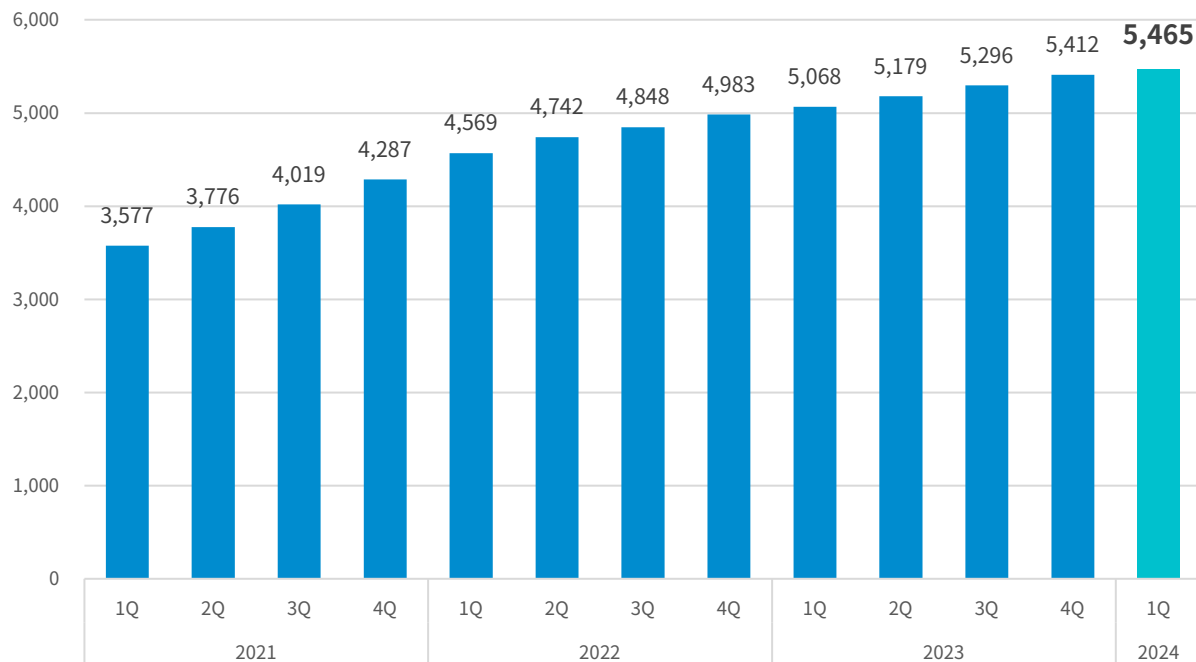


## 現契約社数は 5,450社超に

2021年から推し進める  
営業チャンネル戦略が功を奏し、  
着実に顧客数を伸ばしています。

また、大口顧客比率の増加などにより、  
ARR成長率>社数成長率  
となっています。

期末契約社数推移

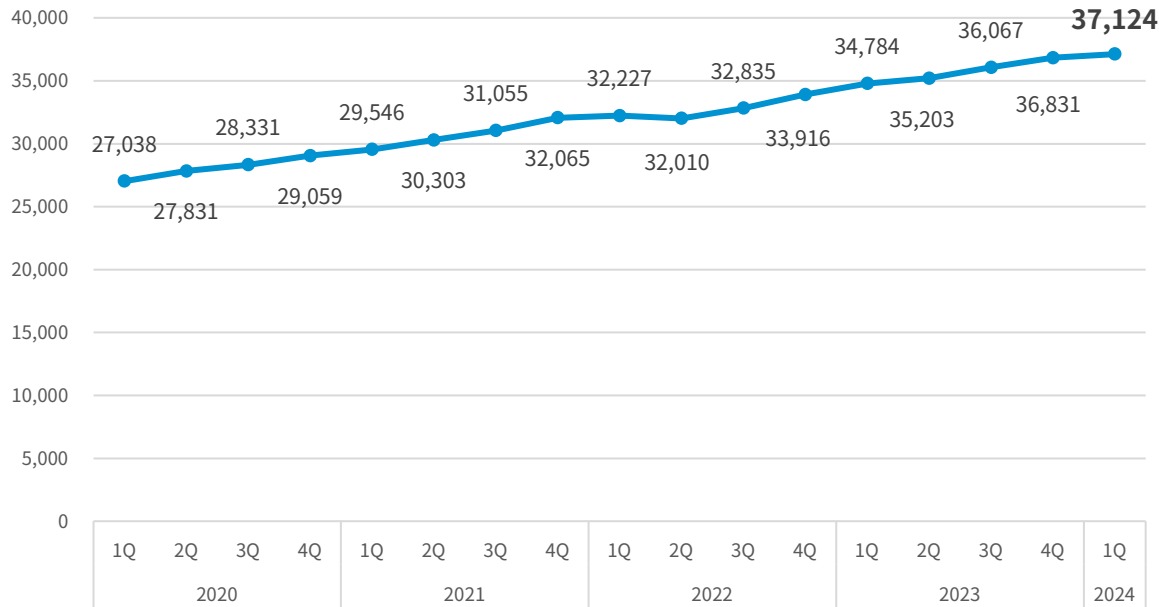


## ARPUは 継続的に拡大

「1社あたりARPU」は、1社あたり導入台数の緩やかな拡大に加え、大規模企業や大型ビルなどの大口顧客の比率の増加により、中期的な改善が継続しています。

今後も、年率5～10%程度の拡大ペースが継続すると見込んでいます。

ARPU推移 (円/社)

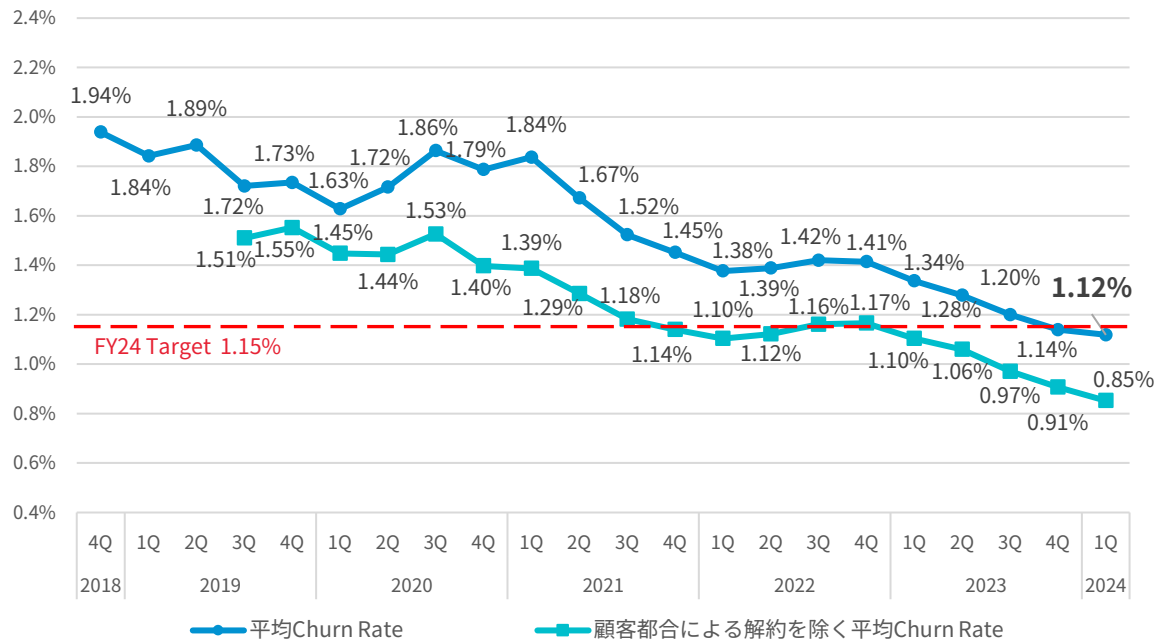


# Churn Rate<sup>\*1</sup>は 順調に改善が進む

「顧客都合による解約<sup>\*2</sup>を除く平均Churn Rate」は、中期的に大規模顧客への拡販、API連携の増加、Akerunコントローラーの構成比拡大などにより、さらなる改善を見込んでいます。

当第1四半期のChurn Rateは  
1.12%へと改善し、2024年12月期の  
Churn Rate目標である1.15%を上回る  
結果となりました。

平均Churn Rate



(\*1) 各期のChurn Rateは、12ヶ月移動平均  
(\*2) 顧客の縮小・閉鎖・倒産による解約



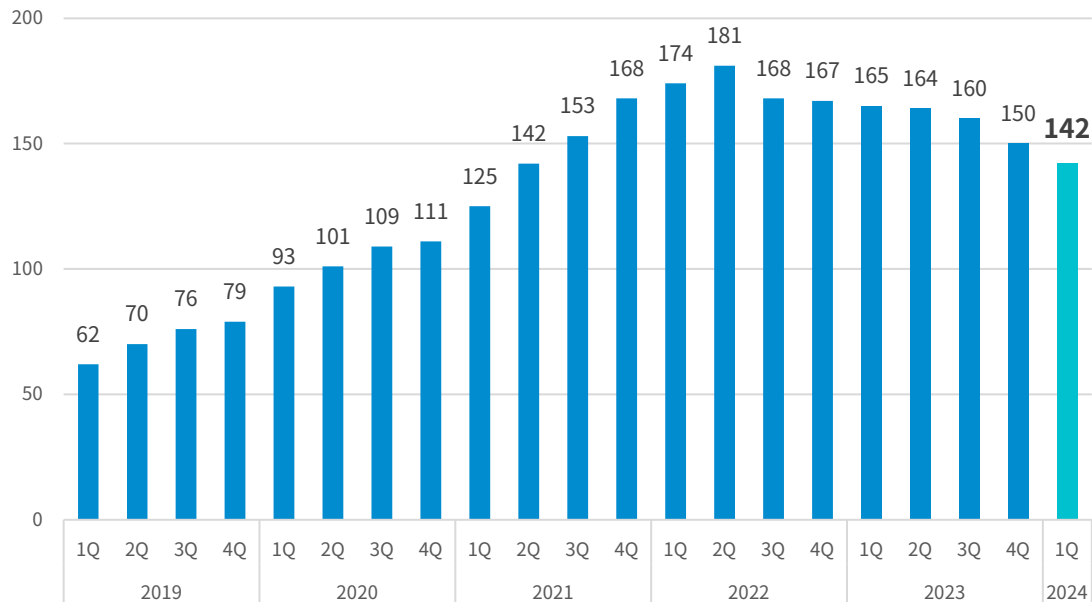
## 正社員数は 前期末比でやや減少も 組織の強靱化に成果

昨年度から推進する連結グループでの2024年12月期  
通期営業利益の黒字化に向けて、一人あたりの生産性  
の向上や組織の強靱化のための取り組みは、  
一定程度の成果を達成できたものと当社グループでは  
考えています。

2024年12月期は、通期営業利益の黒字化を前提に、  
事業成長をさらに加速するために、営業や新規事業に  
おける人員の採用を積極的に推進する計画です。

当第1四半期末の正社員数は、142名と直前四半期  
比で若干減少しました。

正社員数\*



\* アルバイトを含まず

# アジェンダ

① 2024年12月期 第1四半期 決算説明

② KPIアップデート

③ その他



## ■ プレスリリース

Topics

1

AkerunとHRMOS（ハーモス）勤怠が連携開始、  
入退室履歴と勤怠打刻の自動連携で労務管理を大幅に効率化

Topics

2

長谷工ライブネットが管理する賃貸マンションで  
「Akerun.Mキーレス賃貸システム」を導入、  
物件管理の効率化と快適な居住体験を実現

Topics

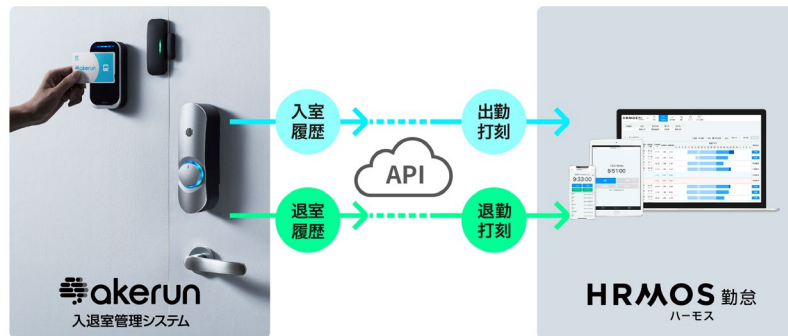
1

## AkerunとHRMOS（ハーモス）勤怠が連携開始、 入退室履歴と勤怠打刻の自動連携で労務管理を大幅に効率化

Akerun入退室管理システムと外部システムとのAPIによる  
サービス連携を引き続き拡充しています。

今回、「HRMOS（ハーモス）勤怠」との連携機能により、  
管理部門における労務管理や給与計算などの大幅な業務効率化に  
加え、利用する従業員などエンドユーザーのUXの向上と  
勤怠入力業務の簡素化を実現します。

入室も退室も、自動で勤怠打刻に入力されるから便利！



Topics

2

## 長谷工ライブネットが管理する賃貸マンションで 「Akerun.Mキーレス賃貸システム」を導入、 物件管理の効率化と快適な居住体験を実現

住宅領域を担うMIWA Akerun Technologiesが提供する


「Akerun.Mキーレス賃貸システム」が、長谷工グループにおける  
賃貸マンションの管理・開発会社である株式会社長谷工ライブネット  
が管理する賃貸マンションに順次導入されると発表しました。

これにより、不動産賃貸プロセスの業務効率や生産性を大きく  
改善できると同時に、物理鍵の紛失などのセキュリティリスクも  
排除でき、安全・安心な賃貸物件の管理と運営が可能になります。



キーレス賃貸システム  
**akerun.M**  
MIWA Akerun Technologies



 **長谷工** ライブネット  
HASEKO

- 1Q/3Q決算は、主に決算内容及びKPIについてのアップデートを予定
- 2Q/4Q決算は、上記アップデートに加え、経営戦略についてのアップデートを予定
- 決算関連資料は、説明会後に弊社WebサイトのIRページに掲載予定  
<https://photosynth.co.jp/ir/>
- IRに関する問い合わせは、下記e-mail アドレスにお送りください  
[ir\\_net@photosynth.co.jp](mailto:ir_net@photosynth.co.jp)

- 本資料には、いわゆる「見通し情報」 (forward-looking statements)を含みます。これらは、現在における見込み、予測およびリスクを伴う想定に基づき作成されており、実質的にこれらの記述とは異なる結果を招き得る不確実性を含んでおります。
- それらリスクや不確実性には、国内外の経済情勢等のマクロ環境の変化のほか、技術開発競争など、当社の関連する業界動向等が含まれますが、これらに限られるものではありません。
- 事業環境および市場動向の分析や研究開発投資による競争力の維持・強化に努めておりますが、上記リスクや不確実性を排除するものではありません。

世界から、鍵をなくそう。

 akerun

